

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	近隣の個人商店などへの買い物等に積極的に出かけ、地域の方々に認知症の方について面識を持って頂きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	多くのお店の方とも知り合いになり声をかけ合える間柄にして行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	回覧板などを回すことから会話の輪を広げて行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	朝日生命でプルタブを一定の量集めると車椅子にできる案内が来た為、散歩がてらプルタブを届けに行くことを不定期ではあるが行っている。(そよ風に反映されるわけではない)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については全員の理解はできていない。利用者様の御家族様からの要望等に対する改善策等はミーティングで行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を回覧している。その他即改善に繋げたい事に関しては朝夕の申し送り等で連絡しGH会議で話し合えるよう意見を出してもらうようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所職員は監督指導する立場の為会議には参加できないとのコメントあり。平成19年10月からは包括支援センターの職員を参加対象にするようにとのこと。市役所は会議については内容を把握し共有化したいとの事で議事録を提出している。その他市役所から質問が入った時は内容について報告・連絡をしている。	○	市役所側としても不明な点が多い為密に連絡を取り合って改善していこうと10月に再度話し合っている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	手続きが必要になった時はその都度職員に説明をしている。市主催の権利擁護の研修会等の参加を促し出席して知識を習得できる機会を設けたり、会議で簡単な意味合いや流れ等を説明している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し送り等で虐待を発見した場合は即通報をする義務がある旨説明を行った。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に数回自宅訪問をして本人様の状況を少しでも多く把握できるようにしている。家族にはこまめに連絡を取り入所までの準備等について説明をしている。契約時には入所初期に起こりうるご本人様の変化やリスクについて説明をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れを申し込んだ。ユニットごとのケアカンファレンスの中で利用者様の希望・不満の原因を話し合い善処できるよう対応を変更している。</p>	<p>○</p> <p>八潮市が新しく介護相談員制度を案内してくれたので相談員が来所されたときは色々意見を聞き改善に役立てたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個別に作成した『そよ風通信』を作成し家族に送っている。またご本人様に変化が見られたときは電話連絡やメールを使って報告・相談をしている。金銭に関してはお小遣い金を預っている為毎月領収書と出納帳を家族に送付している。移動については居室を担当しているご家族様に電話等で連絡し本人からご挨拶をしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の退職に関してはそよ風通信等を使い全ご家族様へご挨拶ができるように改善していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が面会に来られた時に気になる点はないか等の声掛けをし意見を頂くようにしている。また不安が不満に繋がらないよう事前のお話を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>家族会等でアンケート用紙を用意し言葉で言い表しにくい部分を教えてもらえるようにしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議やグループホーム会議等で全員から意見が出やすいように声掛けに配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>個別面談等を管理者から実施し個別の意見をききだしていくようにしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は通常はシフトに入れていない為利用者様の突発的な要望等に対応している。</p>	<p>○</p> <p>より個別の要望に対し柔軟に対応できるよう人員の補充をしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ顔馴染みの職員で対応できるよう職員の固定を図っている。外部からの移動や入職時には在職している職員と一緒に介助にあたり利用者様の意向に沿った援助ができるだけ早く習得できるようシフトを組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	幅広い知識を多くの職員に習得してもらえるよう社内での他センターとの意見交流会等に参加をさせている。またチームワークでの業務の重要性を改めて知ってもらえるよう社外研修等にも参加させている。日常業務以外に担当している業務は定期定期にシフトチェンジしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の入所施設職員による意見交流会への参加をし情報の習得をしている。新規オープンした施設には出来る限りの職員を同行させ見学する事で新たな発見をしてもらえるようにしている。	○	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	表情や態度に変化のある職員居は声をかけ、話を聞くようにしている。またはユニットリーダー等に依頼し話を聞いてもらうようにしている。不定期ではあるがセンター全体での親睦会等も行い気分転換を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員にとっての得意分野と不得意分野を把握するようにしている。得意分野に関しては他の職員に指導出来るよう声掛けを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を数回行い、本人様の身体状況の他精神的苦痛や困っていること等を把握できるようにしている。世間話をとおして性格なども少しでも多く知ることができるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回訪問の時に家族の現状の不安・不満等を伺う様になっている。その後も頻りに電話連絡や訪問を行い徐々に話がし易い状況を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずしもグループホームへの入所を勧めるのではなく、場合によって精神科等の病院受診や他の施設への案内も促し説明を行う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族様との見学をして頂いたり、デイサービスを利用しながら施設全体に馴染んでいただけるよう援助をおこなった。 (ご利用毎にグループホームへ案内をして環境に馴染めるように援助を行うこともある)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中でご利用者様に役割を持ってもらえるよう場面場面によって仕事の依頼をして一緒に行なって頂くようにしている。食事作り等では味付けをみてもらい指示をもらったり、ボタン付け等ではコツを教わったりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの意向を聞き入れる時間を面会時等に設けている。利用者様だけでなく援助を共にする家族様の身体状況・生活環境についても話を伺うように心がけている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊については自由である事など、相談を受けた時や契約時にご家族様に説明をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から行きつけの美容室等には継続して通って頂けるように援助している。		入所前も近隣とのかかわりが少なかった方が多い為隣にあるスポーツ用品店等散歩帰りに寄り会話を持つようにすすめていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食後のお皿拭き等をお互いに声をかけて参加して頂けるよう職員から声かけを促すときがある。		認知度が増すごとに周囲との関わりが困難になってくる方も多い為円滑に会話ができるように職員も配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院後退所になった方やご家族様のお宅に訪問し、本人様やご家族様の最近の状況について伺う事がある。		遠方にお住まいの方への訪問が困難な時があるので、手紙でのやり取りを行っていききたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの話の中で多く発せられる人物等について確認が難しい場合等はご家族様に問い合わせる関係を知っている。外出したいとのご希望がある時は毎回ではないが一緒にでかけ近隣を散歩などして気分転換などを図っている。		今よりも多く個別の外出機会を設けていききたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ユニットごとのケアカンファレンスで本人様の要望や生活スタイルについて話し合っている。できるだけ本人様の意に沿うような対応に変更できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様からの希望が出にくくなってきている。状態を見ながら興奮される方への対応等個々に見ていくように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットで月1回（緊急時はその都度）ケアカンファレンスを開催している。そこで出た内容についてご家族様に協力を頂きたい内容については電話にて連絡をして変更等をしている。その他往診医とも2週間に一度状況報告をし医療面からのアドバイスも頂く。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月から1年に1回の見直しとなっている。現状としては回数が少ない。		今後は3ヶ月～6ヶ月に一度のペースで作成をしていききたい。御家族様が来所される予定を見計らって作成も随時していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書を元に個別ケース記録に日々の状況について記録をとっている。ケアカンファレンスの際に前回の計画についても評価をして今後の計画に反映させている。個別に水分・食事状況・排泄状況・身体測定の記録をとり、グラフにし月間で分かりやすく見えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスのボランティアによるレクリエーションの参加等を促し気分転換を図るよう援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練等を通して地域の方との連携をとっている。その他ボランティアの方に協力を頂きながら大きな年間行事を進めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様の体調に合わせて訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	八潮市は平成19年10月に地域包括支援センターが開設した為まだ連携までは至っていない。成年後見人として管理をして頂いている方とは定期的に連絡をとりご本人様に面会に来て頂き状況を説明するようにしている。		今後の運営推進会議では包括支援センターの職員の方にもご参加頂き幅広い情報をより得ていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所説明時にかかりつけ医の確認をしている。そよ風に往診医が月2回来ている事も説明し選択をして頂くようにしている。その他のかかりつけについても希望を優先している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の居宅介護支援事業所等にも協力を頂き認知症に詳しい病院等を紹介してもらったり、往診医から情報を得て受診をしている。職員が同行したり、先方の医師に近況報告書を提出しより詳しい状況を説明できるように努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師が帰りがけにグループホームにより全員の方に声掛けをしてくれている。その他相談ごと等も看護師に行いアドバイスをもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	往診医とまめに連絡をとっている。入院になった時は病院へ訪問(お見舞い)をしたり、主治医に会えない時はFAX等で病状について問い合わせをし後に連絡を頂くように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望されるご家族様にはお元気な時からそよ風内で看取りができる身体的状況とそうでない場合の説明を行っている。他にターミナルケアについての確認書を取り、介護計画書も状況が変わる都度説明を行った。主治医とも家族との話し合いの内容を報告しその時々状況を一緒に把握してもらっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを希望されるご家族様にはお元気な時からそよ風内で看取りができる身体的状況とそうでない場合の説明を行っている。他にターミナルケアについての確認書を取り、介護計画書も状況が変わる都度説明を行った。主治医とも家族との話し合いの内容を報告しその時々状況を一緒に把握してもらっている。職員には医師からの説明・支持をその都度朝夕の申し送りで説明し対応の変化に備えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ転居される場合は先方の施設職員宛に介護サマリーを提供している。その他薬などについて説明書をつけて渡すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様が認知症であっても職員よりも年配で尊敬する立場の肩である事、よって言葉遣いも丁寧でなければい、優しい印象を持つ声掛けでなくてはならない事等をグループホーム会議や日々の申し送りで伝えている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	質問するときにはいくつかの選択肢を提供し選んで頂く場合と本人様が理解に困難される方に関しては分かりやすく短い言葉で質問をするようにしている。それでも言葉の理解が困難な方は普段の食事の嗜好を加味して職員と一緒に選ぶようにしている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課表の決まりがあるが、ご利用者様に強制はしていない。しかしあながち時間で配分して進めてしまっているところもある。	できるだけ時間に囚われずにゆったりした時間を過ごせるよう職員の気持ちもゆったり
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様が選べる方に関しては起床時に一緒に・または本人様に選んで頂いている。不可能な方に関しては職員が選り着替えを介助している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は厨房調理で選択性となっており職員が一人ひとり聞いている。朝食は職員が夜勤中に作るが、油禁止の方やパン食希望の方には別メニューを作り対応している。食器の片付けに関しては出来る範囲のことを個々に声掛けをし毎回行って頂いている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・飲酒は医師と相談の上量等を決めた上で可能な方・希望のある方は職員見守りの元自由に飲んで頂いているが現在は特に希望が出ない状況のため実施していない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の不明な方が殆どの為、定期的にトイレの声掛け・誘導を行っている。(日中は約2時間おき)夜間は個々の排泄の時間帯が異なる為、個別の誘導時間を設け夜間誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入所前の事前調査で殆どの方が午後～夕方にかけて入浴をされていた為おやつ後に早く入りたい方・最後に入りたい方を把握し声をかけている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ある程度の就寝時間は決定している。眠れない方や生活スタイルで遅くまで起きている方には遅い時間であれば声かけし事務所で職員と一緒に会話を楽しんだりすることも多い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑誌を見るのが好きな方には一緒に本屋にでかけ好みの雑誌を購入していただき楽しんでもらえるようにしている。その他歌が好きな方には頻繁に一緒に歌を歌うなどして楽しさを作るようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個々での現金管理はして頂いていない。(紛失してしまうことが殆どの為)		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望の声が出にくい状況である。夕方買い物に行きたくなる方がいらっしゃるので、毎日ではないが買い物といいつつ散歩を楽しんでもらうようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	父の日等に男性利用者様と男性職員でうなぎを食べに出かけたり、喫茶店に少人数ででかけゆっくりとコーヒーを楽しんで頂いたりすることがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたい意向があった時は職員から予め先方に連絡を取り電話の許可を頂いてからかけて頂くようにしている。		今後は手紙なども自筆で書いて頂き、請求書に同封する等のサービスもしてみたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ふだんからできるだけ面会に来て頂き本人様の楽しみを増やしてあげて欲しいと家族様には説明している。面会に来て頂いたときは本人様の意向に沿い、居室またはリビングで一緒に過ごして頂くようにしている。その際最近の様子について職員から少しでも説明をするように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議等で拘束に関する禁止事項等を説明している。その他ニュース等で介護に関する内容があった時等も朝夕の申し送りでも説明をするようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の立地が交通の激しい所にある為、グループホームの出入り口の扉には鍵をかけている。ご家族様には家族会や運営推進会議等で口頭説明をしている。		鍵をかけずにゆったりした雰囲気でも生活が送ってもらえるよう対応を早急に変更していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員がリビングに見守りとして一人は残るようにしている。夜間はもう一方のユニット職員と声を掛け合って交代で休憩などを取るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所のポットなどは誰でも使えるように配置している。包丁は持ち歩く方がいる為手の届かないところに保管をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	手洗い用石鹸を口に入れる方がいる為手洗い場に近づいたり台所に近づかれる時は声をかけ他に気持ちをそらす様にえんじょしている。リビングに全く来ない時間が1時間あったら居室に伺い状況確認をするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム会議等で定期的に緊急時の対応について説明を行っている。応急手当については往診医等に指示を仰いで対応するようにしている。新しく職員が入ってきた際には緊急の連絡体制(誰に指示を仰ぐのか)等を早めに指導するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	センター内での避難訓練を年に2回実施している。		近隣の方へのアプローチが不足している為今後は挨拶やそよ風の説明だけでなく非常事態の協力についても依頼をかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	精神状態・身体状況の変化に伴い電話や面接にてご家族様に予測される事故などについて説明をしている。著しい状態変化については他の医療施設等の案内もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックの他顔色や表情の変化が見られる場合はこまめなバイタルチェックを実施している。その他往診医や看護師に相談をして悪化する前に病院受診をするように繋げている。家族への報告も行う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は申し送りノートに記載し、副作用や予測が考えられる行動等については朝夕の申し送りで3日間伝達するように職員で徹底し記録に残すようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味な方が多い為、水分の補給を多めに撮って頂くようにしている。その他牛乳や便通の良くなるお茶などで予防を試みている。毎日の体操を行ない体を動かす機会を作っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けを行い歯磨きをして頂いている。殆どの方が介助が必要な為、入れ歯を外すところから介助をして職員が磨いている。出来る方には声掛けと見守りを行っている。		口腔内のチェックまでもう少し行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量についてチェック表に記載をしている。水分に関しては一日のトータル量を計算し通常と変化がないか等を確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等）	職員全員がインフルエンザの予防接種を実施している。ご利用者様にも家族様へ連絡をし予防接種をお願いして、昨年はノロウイルスの事前対策等を専用の消毒液を購入したりどの種類が一番殺菌力が強いかなどを朝夕の申し送りやグループホーム会議で説明して情報の共有化に努めている。毎晩次亜塩酸ナトリウム液で床をモップがけし消毒に努めている。手すりも夜間消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩夜勤者が食器フキン・台フキン・まな板等を次亜塩酸ナトリウム液で消毒をしている。その他調理器具は冬場に専用の消毒液にて調理後消毒をするようにしている。		一年を通して消毒は継続をしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かい印象をもってもらえるよう玄関口に植木鉢を置き花を定期的に植え替えるようにした。外出した際の写真を定期的には貼り出すようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように装飾をしている。利用者様にも参加いただき合作も展示している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、食事を摂る場所以外にゆっくりできるスペースを確保している。そこで洗濯物たたみ等も行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の説明時に出来るだけ自宅で使い慣れた物を持参いただくように説明をしている。茶碗・湯のみ・箸の他タンスや畳を持ち込まれる方もいらっしゃる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日行っている。職員も外から入ってきて臭いがした場合はその都度換気をするよう心がけている。リビングには湿度温度計を設置し気温の変化を肌と目で確認するようにしている。冬場は日中・夜間を通して加湿器を稼働させ定期的に霧吹きで湿気を保つようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや廊下に手すりの設置を行っている。最近では浴槽にも手すりを増やし浴槽への出入りが困難な方にも不安が少なく入浴を楽しんで頂ける様工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人で分かりやすい声掛けを行い不安を取り除き生活が出来るように援助をしている。出来るところは手を貸さず見守りの中で行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで花や野菜の苗を植えて頂いたりしているが定期的ではない。		もっと季節を感じて頂けるよう季節の花を植えたりしていきたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
		<input type="radio"/>	数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	たまにある
		<input type="radio"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)